

1. 日時：2012 年 5 月 29 日（火） 14:00～17:00
2. 場所：大阪工業大学／大阪センター303 号室
3. 出席者：13 名（敬称略，下線は欠席者）

中塚侑，宮川豊章，西山峰広，佐藤裕一，中村健一，浅川弘一，阿波野昌幸，市岡有香子，井上晋，大下栄吉，及川雅司，寒川勝彦，岸本一蔵，久保善司，坂田博史，島田安章，白濱昭二，杉田篤彦，田中秀人，谷昌典，寺口秀明，中村佳史，服部篤史，濱本哲嗣，日高重徳，丸山一平，三方康弘，吉田正友

学生オブザーバー：林成俊，李在満

4. 配布資料：

- 1-1：道路橋梁群のライフサイクルコストの算定と年度コスト平準化（服部委員）
- 1-2：平準化手法の違いが橋梁群の維持管理コスト平準化に与える影響（服部委員）
- 1-3：道路橋梁群の維持管理コスト平準化と健全性向上を目的とした GA の適用（服部委員）
- 2-1：PC 梁の想定外曲げひび割れに対する必要鉄筋量（パワーポイント資料）（島田委員）
- 2-2：PC 梁の想定外曲げひび割れに対する必要鉄筋量
(プレストレストコンクリート誌抜刷)（島田委員）

5. 議事内容：

- (1) 「道路橋梁群のライフサイクルコストの算定と年度コスト平準化に関する検討」に関して服部委員より説明，ならびに質疑応答があった（資料 1-1，1-2，1-3）。

(質疑応答)

- ・ 先送りも含めて，平準化を適切にすることが大事なのか？
→予算の制約のため先送りが基本となる自治体が普通のものであり，その結果将来の健全度の低下もありうるが，各自治体で何とか先送りと健全度のバランスを考えている。
- ・ よい劣化予測，判定基準はあるか？
→県レベルなど広域を対象にデータを集め劣化曲線を検討している地方自治体もある。
- ・ 劣化曲線（資料 1-2）と平均健全率の経年変化改善に関する回帰直線（資料 1-3）を説明して欲しい。
→資料 1-2，資料 1-3 に基づいて説明。
- ・ 損傷度と健全度の違いは？
→損傷度は 5 段階評価，健全度は 1～0 の数値にしている。
→建築の地震時の応急判定に似ている。
- ・ 組織ごとにやり方が違うのか？（吉田）
→国の通達に準拠している。
- ・ 優先度はどうして決める？
→説明できるように点数化して決めている。
- ・ ISO はどこが取得する？
→ISO は AM に関するシステムの品質規準（基本システム）を定めると考えられる。そ

れに準拠したシステムを各社が作ることになると思う。

(2) 「PRC梁の曲げひび割れに対する最小鉄筋量」に関して島田委員より説明，ならびに質疑応答があった（資料 2-1, 2-2）。

（質疑応答）

- ・ 梁せいの影響が線形とならない理由は？
→ 中立軸の変動の少なさが関係していると思われるが，十分検証できていない。
部材端など上端引張の場合はどうなるか？
→ 別途考える必要がある。
- ・ 建築に比べ，土木は PC をなるべく外縁に通すため，ひび割れの問題が起こりにくい気がする。
→ 建築と土木の違いをもっと議論したい。
- ・ 用心鉄筋とは？
→ AIJ の PRC 指針に「必要鉄筋」として解説あり。
- ・ 不測のひび割れに関して鉄筋を増やすことと，破壊時挙動の関係は？
→ PRC 指針は不測のひび割れに関して鉄筋量がむしろ不足気味と考えている。（各荷重レベルにおける照査についての詳細については時間切れ）

(3) 及川雅司委員（市来隆志委員の後任）の就任挨拶があった。

(4) 次回の開催日時について

次回は，2012年8月27日～30日に行う。正式日程は別途メール審議で決定する。

以上 （記録：佐藤）